

# 第11回 銀華文学賞発表

十一回目となった銀華文学賞は今回もまた日本全国およびインド、フランスなど海外からの作品を含め、三七六篇という多数の御応募をいただきました。厚く御礼申し上げます。

予選選考を経た作品の中から、大高雅博・八覚正大・小浜清志・都築隆広・五十嵐勉の選考委員による厳正な審査の結果、以下の通り受賞作が決定いたしましたので、ここに発表させていただきます。また御遺族の御厚意により河林満賞も併せて選出させていただきました。

誌面の都合により、奨励賞などの作品は六〇号以降に順次掲載させていただきます。

第十一回銀華文学賞授賞式・祝賀会および懇親会は、二〇一五年二月一日(日曜日)午後二時より東京の大田区民プラザにて「文芸思潮」エッセイ賞/現代詩賞/イラスト・漫画賞/まほろば賞と併せて行なう予定です。どなたでも御参加可能ですので、どうぞお誘いのうえ御出席ください。

なお銀華文学賞はまことに申し訳ございませんが、新たな形へのため、二年ほどお休みをさせていただきます。まほろば賞などの賞は継続いたします。投稿は受け付けます(掲載審査料三千円を添えて編集部にお送り下さい)。優秀な作品は文芸思潮優秀賞・奨励賞として掲載させていただきます。

## 銀華文学賞

### 当選

「天空に打つ」

工藤辰吾 (千葉県山武市)

「アクリル板」

原浩一郎 (滋賀県大津市)

### 河林満賞

「背信」 来の宮あんず (東京都江東区)

### 優秀賞

「クーデター」

六藍光洋 (兵庫県神戸市)

「ワニタンうどんはソマリア・レシピ」

大森康宏 (兵庫県神戸市)

### 奨励賞

「ハーネス物語」 小笠原新 (山形県酒田市)

「首輪」 竹内 稔 (東京都西東京市)

「ガラスの檻」 櫻田秀三郎 (兵庫県宝塚市)

「父にあいたい」 浦上京子 (大阪府寝屋川市)

「シヤガ」 脇田 正 (福岡県福岡市)

「ラスト・トゥデイ」 大島直次 (埼玉県新座市)

「妻恋い」 遠道日暮 (長野県大町市)

「捨てざる」 田代理恵 (東京都江東区)

### 歴史小説奨励賞

「猫忍の村」 大森耀平 (栃木県足利市)

「水車」 西田信博 (茨城県つくば市)

「景珂」 吉田宏子 (宮城県仙台市泉区)



# 佳作

- 「斎場の雨音」 高岡啓次郎
- 「遊女の離縁状」 岡田治朗
- 「華やいだ幻想の彼方は」 佐山広平
- 「安謝浜疑獄」 平安名尚
- 「オメカケさん」 馬込太郎
- 「ふたたび青春を」 飯島もとめ
- 「再起をかける」 佐藤義弘
- 「水たまり」 氷川 順
- 「指」 渡邊眞美
- 「YES」 田中智之
- 「裏街、もしくはマーメイドの生成」 小林英実
- 「小さな昭和史『香椎会談』」 森千恵子
- 「自転車泥棒」 紙屋里子
- 「旅の果て」 山崎人功
- 「ヘッドライト」 上村淳三
- 「秩父へ行く」 小野友貴枝
- 「月光の曲」 北条かおる
- 「遠雷人」 山本子峰

# 「就活」

- 「如月の虹」 井上理博
- 「傷」 安良川健介
- 「旅立ちの情景」 室町 眞
- 「絆歌」 芳井 明
- 「山の荷」 大見佐耕
- 「接着剤」 佐斗有崇緒
- 「揺らぐ照屋」 林 道代
- 「ミノタウロスの水辺」 梶川洋一郎
- 「藤の台団地」 桐本千春
- 「盗蜜の味」 前岡光明
- 「契し男」 市原浩子
- 「まつぼっくり」 森 幸夫
- 「再生」 上野 歩
- 木川雅樹

# 歴史小説賞佳作

- 「遊女の離縁状」 岡田治朗
- 「安謝浜疑獄」 平安名尚
- 「仇討ち」 内藤久男

# 入選

- 「心に住む魔物」 上杉 辰
- 「追憶」 五十嵐丈彦
- 「幻仙奇譚」 一之瀬和男
- 「甲子夜話異聞」 千津敬紀
- 「一乗谷・諏訪館跡に立つ女」 藤井典央
- 「瓶の中の血」 清水利章
- 「アデイオス、アミーゴ」 佐藤英行
- 「羽根雲」 小倉章志
- 「黄昏の彼方」 喜多文秀
- 「墓参り」 十八鳴浜鷗
- 「グレープフルーツ」 菊池 洋
- 「べんたるさん」 成平一平太
- 「わかれみち」 大江純子
- 「図書館で知り合った老人」 森永昌雄
- 「すずらん」 吉田三夫
- 「来訪者」 きひつかみ
- 「幸福測定器」 中他見男
- 「片恋」 西谷 守
- 「ももいろ うーちゃん」 いまだまりこ
- 「知床へ」 高岡賢三
- 「東京薄暮地帯」 戸澤洋二
- 「まどろみのそのさきへ」 舟橋空兎
- 「夢鉄道」 塩崎勝彦
- 「小屋」 右田洋一郎
- 「邪馬台国 幻想」 蘭 藍子
- 「カライモ畑の天使たち」 坂上弘之
- 「鶴が啼く」 飛葉哲郎
- 「共生生活」 西本美彦
- 「ケジメ」 赤間芳太郎
- 「深い疵」 梁田信子
- 「胸の洞」 丸山 史
- 「青花」 山田真弓
- 「魚鬼」 塩崎憲治
- 「化身」 杉山千里
- 「津軽藩大量死事件その後」 野原憲次
- 「昭和の青春」 磯部 彰
- 「ロケットペンダント」 椿山 滋樹
- 「妻はつらいよ」 三浦喜代子
- 「高越山」 高木 純
- 「富士を描く」 谷 光洋
- 「はじまり」 田森 龍
- 「嫁が島伝説」 白井 康
- 「咲くよこの花」 丸山 温
- 「アマランダの追憶」 関口 彰
- 「散華の木」 李耶シヤンカール
- 「オットセイの骨」 伊藤一彦
- 「式典の後」 有原海実
- 「思い出帰り」 星野 透
- 「天国から来た暗殺者」 有汐明生
- 「大漁会館」 鈴木無一
- 「走る」 菅谷春子
- 「呼び鈴」 上野雄三
- 「五分の魂」 小藤田一
- 「論告求刑」 酒井一至
- 「思春期の未踏」 西條由美子
- 「風を追う」 武藤蓑子
- 「小さなスナック」 折口 眞
- 「燎原の火」 横井純子
- 「若葉の移ろう頃」 瀬川圭介
- 「わが落魄の思いは」 山本憲明
- 「鎮まらない家」 齋藤澄子
- 「告発」 有森信二
- 「内間運送」 鈴木かのか
- 「無価値の価値」 待木 啓
- 「山カフェ・シヤングリラ」 井上幸子
- 「聡子の二週間と一日」 能勢里子
- 「やまゆり荘物語」 龍野 健
- 「牛若、鬼若物語」 ヒミ子

※今回も力のある作品が多かったため、入選として賞揚させていただきます。

## 河林満賞の創設に因る

河林満文学賞は、二〇〇八年一月十九日脳出血で急逝した作家・河林満を偲び、その文学への情熱と創作にかける志を遺す意を込めて、御遺族の寄付を基に、二〇〇八年十二月十日に創設されたものです。故河林満の文学への熱情と響き合う、優れた小説作品・創作活動への顕彰とさせていただきます。

贈賞作品は銀華文学賞に応募される小説作品を対象にし、銀華文学賞選考委員によって銀華文学賞選考会において同時に選考され、御遺族の承認によって決定されます。

受賞者には賞状、賞品、記念品、賞金五万円が銀華文学賞授賞式で授与されます。

この賞によって、たゆまず小説創作に情熱を燃やす方々に光を当てることができましたら幸いです。

作家集団「塊」／文芸思潮

